

令和6年度第1回 宇部市高齢者福祉計画審議会 会議録

日 時：令和7年2月18日（木） 19時～20時30分

場 所：宇部市役所 本庁3階 会議室3-3、3-4

出席者：【委 員】15名（1名欠席）

【事務局】13名

【傍聴者】なし

1 第9期宇部市高齢者福祉計画の進捗状況について

【事務局】資料1、1-1により進捗状況について説明。（質疑応答は以下のとおり）

【委 員】＜健やか 健康教室等の参加延べ人数＞

「今後の取組」に北部地域の参加者が少ないとあるが、都市部でも少ないことがある。以前、午前と午後でイベントの開催日が重なり、参加者が少ないことがあった。高齢者が定期的に外出するきっかけを作るためにも保健師同士の横のつながりを作り、情報の共有や連携を進めてほしい。

【事務局】来年度のまちなか保健室の開催日については、類似したイベントの開催日を確認し決めていきたい。

【委 員】＜健やか 特定健康診査受診率＞

宇部市の状況を理解するために、県内他市や全国的な状況も含めて説明してほしい。また、他自治体の好事例を参考にして、今後の取り組みを進めてほしい。

＜安心 見守り愛ネット登録事業配信メールおよび LINE 受信登録者数＞

LINE システムの変更については、高齢担当課だけでなく市全体のことだと思うので積極的に広報して欲しい。

【委 員】＜安心 見守り愛ネット登録事業配信メールおよび LINE 受信登録者数＞

見守り愛ネットは中学生でも LINE 登録できるか。

【事務局】登録できる。ぜひよろしくお願いします。

【事務局】＜健やか 特定健康診査受診率＞

令和５年度で、宇部市は県内では１３市中１１位と低い位置にあり、県自体も全国で下から数えて５番以内という状況。団塊の世代が後期高齢者になると、受診が定着していても今回の調査には反映されません。さらに、世代間で受診率の差があるため、若い世代からも受診してもらえよう工夫をしていきたい。

【事務局】＜安心 見守り愛ネット登録事業配信メールおよび LINE 受信登録者数＞

公式 LINE のリニューアルについては、市全体の話なので担当部署と協力しながら対応し、周知啓発に努めていきたい。

【委員】＜健やか 特定健康診査受診率＞

宇部市の特徴として、企業の検診が充実している。そのため、特定健康診査が見劣りして見えるのではないか。また、人間ドックの結果をどのように特定健康診査の受診率に取り込むかについて教えてほしい。

【事務局】人間ドックの費用を全額自己負担した人を対象に、特定健康診査分の金額を一部補助することを検討している。検診結果を提出してもらい、必要項目を満たしていれば、こちらで集計し、受診率の計算に反映させる。

【委員】＜生きがい シニアおでかけ応援事業＞

福祉計画の目標指標に追加してはどうか。

【事務局】 昨年９月に開始し１５３店舗が登録、現在は１６３店舗登録がある。この取組の目的は高齢者の外出のきっかけづくりで、現在、効果を測るための指標を検討中である。今月、事業所と利用者にアンケートを実施しており、その結果を参考に目標指標に追加するかどうかを決めたい。

【委員】シニアデーを作ったりするのはどうか。

【事務局】参考にさせていただく。

【委員】＜安心 福祉的課題を抱える世帯の課題改善率＞

障がい者の子供を抱える高齢の親御さんや、認知症のために金銭管理ができない独居高齢者が増加している。コロナ以前は、地域包括支援センターを中心に、月1回ブロック会議が開催され、高齢者の課題が取り上げられていました。しかし、コロナ以降、ブロック会議やサービス調整会議の開催が減少している。開催回数を増やすことはできないか。

【事務局】コロナ渦で会議の回数の減少や、書面開催を行っていた。今年度から開催回数を3回に増やし、来年度も開催回数を増やす予定。ブロック会議からサービス調整会議に課題を上げ、宇部市の施策に反映できるように取り組んでいく。

市では支援会議および重層的支援会議を通じて、重層的支援体制の整備を進めている。包括の職員、なんでも相談員、保健師、アウトリーチにより課題を持つ世帯に対し、関係機関が集まり会議を実施している。この中で高齢者に関する会議は18回のうち6回行われ、内容は主に経済的困窮である。

【委員】＜基盤づくり 介護職員等の人材確保の人数＞

昨年末、介護人材が前年度から2万9千人減少したニュースを見て危機感を抱いた。介護福祉士会では、今年度中学校1校と高校3校で福祉の出前講座を実施し、介護職員のやりがいや、仕事を選んだ理由を話した。オンラインでも企画を行っているが、去年は参加人数が3人、今年は0人だったので、宇部市から学校への呼びかけには感謝している。県内の高校1年生が参加するしごと魅力発信フェアに参加し、高校生でも介護職の仕事内容や、介護職員と出会ったことがないことを知った。魅力発信の前に、介護職員の存在を知ってもらう機会を作りたいと考えている。

【事務局】令和3年からこの授業を始め、今年度は中学校と高等学校あわせて7校の申し込みがあった。先日、校長会で来年度の授業の宣伝を行い、令和7年度申し込みを開始した。今後も継続して実施していきたい。

【委員】＜安心 短期集中予防サービス事業＞

令和6年に実施したモデル事業では30人を対象としたが、令和7年度の対象人数は。また、卒業後の受け皿として、サロンや健康教室の普及に向けて、取組内容を教えていただきたい。

【事務局】令和7年度の10月頃から開始予定で、毎月80名が新規利用し、来年度は合計で480名が利用する想定。令和6年度は4事業所がモデル事業に参加したが、今後は意向調査を行い、参加事業所数の増加を目指す。また、卒業後の受け皿は、令和7年度から開始する高齢者就労支援事業で地域資源を掘り起こすなどして、充実させていきたい。

【委員】包括支援センターの業務量が増加するのではないか。

【事務局】短期集中予防サービス事業は、利用者が元の生活を取り戻せるようリハビリ専門職等の支援を受けながら、90日間集中的に個別プログラムに取り組むサービスです。今年度、検討委員会を設立し、委員会で課題や効果を議論している。包括支援センターの役割は、最初の窓口、リハビリテーション職員との自宅訪問、サービス提供時の会議、卒業後1年間のモニタリングを予定している。包括支援センター職員は、従来の業務よりも多い、自宅への訪問や会議に負担を感じており、ウェブ上での訪問日の調整や、対面ではなく電話でのやり取りなど、簡素化した仕組みの導入を検討している。また、明日今年度最後の検討委員会があるため、来年度の本格導入に向けて制度設計を進めていきたい。

【委員】訪問しても、訪問だけで終わらず、その記録をしないといけない。包括支援センター職員の事務的な仕事も増加すると思うがどうか。

【事務局】包括支援センター職員の意見を聞きながら検討していきたい。

【委員】負担はあるが、利用者が卒業を目指して頑張る姿や元気になる姿にやりがいを感じている。元気な高齢者が増えることはいいことなので、これからも頑張っていきたい。

【委員】＜生きがい 高齢者就労支援事業＞

目標指標の根拠に、約200社と記載があるが、これだけ仕事があるということか。

【事務局】人員不足の会社がハローワークに求人広告をしても、応募がないと

聞いている。そのため、一人分の仕事を細かく分けるなど、高齢者の多様なニーズに合わせた環境づくりを目指している。さらに、この事業は一部委託を検討しており、委託事業者が市内企業に就労の切り出しを提案をする目標を200社としている。働きたい高齢者と人を雇用したい会社がマッチングできるシステムの構築を目指している。

【委員】＜認知症カフェの設置個所数＞

認知症カフェの開催日時が分かりにくいと思うので、チラシを作成して配布して欲しい。山口市では、認知症カフェでスタンプラリーを行い、全部集めて市役所に持っていくと景品と交換できる企画をしていた。また、プラチナサポーターが活躍する場がないので、活動機会を作ってほしい。

【事務局】周知方法については、今後課内で検討していきたい。

プラチナサポーターは現在171名で、そのうち今年度の新規登録者は21名となっている。

2 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の公募について

【事務局】資料2により公募状況について説明。（質疑応答は以下のとおり）

【委員】このサービスを利用し、頻回にかかわることで落ち着いた等の事例は、このケアプランがケアマネジャーの意図で作成されたものか否かを明確にして、その情報を基に議論することで、建設的な会議になる。

【事務局】先週開催した地域密着型サービス運営委員会でも同様の議題を議論した。その際、利用者が自分でサービスを選べるように市が後押しをして欲しいという意見が出た。令和7年度には市が利用者を後押しするような姿勢を示していきたい。

【委員】人員不足で定員を満たせないと聞くことがあるが宇部市はどうか。

【事務局】定期的に、特別養護老人ホームの待機者調査を行っているが、人員不足とのご意見を受けることがある。今回は老人保健施設でも同様の調査を実施したが、同じく人員不足との回答だった。

3 第10期高齢者福祉計画策定スケジュールについて

【事務局】資料3によりスケジュールについて説明。

質疑応答はなし

4 介護保険料における基準額の変更について

【事務局】資料4により条例改正について説明。

質疑応答はなし